

私たちは先ず誰しも真っ暗な体内で過ごし、やがて期満ちて、明るい此の世に出てきます。明るいのが良いとばかりは言えませんが。現在は誕生してから歳を勘定しますが昔は体内にても生命ありと考へ誕生すれば一歳としました。俗にいう数え年です。生が無ければ人生も無く、当然死もありません。いずれにしましても生命の誕生を心より喜ぶべきでしょう。されば先祖につながるの**ない生命は無く**ご先祖様が大変お喜びになるからです。この世に生まれる**という事は釈迦の教えの如く 生・老・病・死、というソレゾレの境涯に於いてソレゾレの苦しみを味わう事があります**。離婚も生の苦しみなのです。離婚の多くは子供に血統を継がせた責任ある片親の所在に関心が無く、やがて判らなくなってしまう。私は血のつながりをもって先祖の供養をしなければ、と考えています。やがて離婚家庭は先祖供養の仕方に間違いを起しやすいです。この世は森羅万象死に向かつて歩んでいます。死に至るまでの苦です。宗教も例外ではなく滅していくでしょう。仏法で言えば人類の破滅の前に弥勒菩薩がお出ましになります。それまでは地藏菩薩が我々の救済にあたってくださいとの事です。現実に見ても戦争は絶えないし、不穏な世界情勢は続くであろうし、原発事故も一旦起きれば収束は予定が付きません。娑婆の世界は何らかの火種があつて、心からの休息はできないと思えますが、ひと時の休息を求めるとすれば、矢張り罪無き佛の教え「**扱苦与楽**」を求めべきでしょう。

以前から佛の教え、「**忘己利他**」のお話をして来ましたが、山口春三氏「キリックスグループ」社長は「正しさ手紙で学ぶ」の中で恩師松本亮先生から人間としての正しい在り方を学ばれたそうです。それは経営の基本は金もうけではなく、お客様や従業員、会社にかかわる人達が、どうしたら喜んでくれるかです。人間として正しいと思うことをいかに追及するか、その姿勢を先生に教えて頂いたそうです。当に「**忘己利他**」の心掛けでした。世の中損得を平等にしてこそ平和が成り立つと考えます。葬儀とて同じ事です。亡くなられた方の魂を極楽に届ける事にあります。骨にする作法に限る訳ではありません。魂の問題です。物質的に骨にするだけなら直送（直葬）で結構です。我々の誕生を見れば一目瞭然、**生まれた赤ん坊に魂を入れる儀式をした方はいません**。なぜなら魂は先祖から受け継いで生まれて来るものと理解しています。坊主として魂を安らかにおくり、そして安らかに生まれてきてほしいのです。〇〇殿と言う葬儀屋にはがっかりしたものです。葬儀は坊主の意に沿ってやって頂きたい。我々の身体は佛から頂いた仏性からなります。無駄な命はありませんが残念ながら無駄にしてしまふ命があります。佛の教えに十悪あり。その第一番目が殺生罪です。行動の結果が殺となることです。先月号で少し念佛のお話をしましたが、私の考えでは念佛を称える事によって吾が身を守られ悪の道に引きずり込まれないようにして頂けるし、死して後の我が身をも極楽におくって頂けるのです。なぜならば、**阿弥陀様が救ってやると確約して下さったからです**。親鸞聖人のお言葉に「たとい法然上人にすかさされまいらせて念佛して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからず候」と。信じる**とは信じ切ることだと考えます**。念佛を信じた僧は法然上人一人ではないのです。念佛を通しての法然上人です。ソレゾレの境涯に於いて苦の解消に明暗あり。その分かれ道は佛に好かれる行いをして来たか、否かによるでしょう。正思・正見等、正しき行いが佛の願いであるからです。目先に狂いがなければ

暗闇に入ることはありません。

二十八年十一月一日

善壽界善入院 油持地藏尊